

資料 6

訓練現場の現状と課題

アンケートに記載された各施設の訓練現場の現状と課題に記載された意見。

訓練現場の現状と課題

1	資格取得に積極的に取り組んでいる。2, 3級建築大工技能士、ガス溶接技能講習、アーク溶接特別教育、刈払い機安全衛生教育、振動工具安全衛生教育、自由研削砥石特別教育、携帯用丸ノコ盤安全衛生教育、低圧電気取扱業務特別教育、玉掛技能講習、2級建築施工管理技士補、指導員免許（建築科）
2	在来工法を基にした教科及び教科書と時代に沿った <u>技能技術のギャップ</u> の指導が難しい。
3	<u>近年における住宅建築の施工方法の大部分がプレカット構法となり、訓練生の分散訓練において、従来の手刻み加工などの伝統的な構法を経験できる機会ほとんどない訓練生もあり、技能照査の実技試験において、習熟度に大きなバラツキが生じている。訓練生のほとんどが、住宅メーカーの社員であるため、プレーマーなどの業務が主となっていることがその要因と思われる。</u>
4	訓練生一人一人の経験、年齢、通う目的が違うため、一人一人に合わせて工夫して指導している。
5	コロナ禍により、夏場35℃以上でのマスク着用作業および冬場0度近くになる状況でのこまめな換気など、以前より作業環境が格段に悪化している。また、ソーシャルディスタンスにより間隔を開けるため、実施の指導が伝わりにくく、また生徒の状況も把握しづらい。
6	新型コロナウイルス感染症防止のため、全国交流集会や社会見学、修学旅行などの実施が難しい。見聞を広げる良い機会だが、社会情勢的に厳しい。県補助対象経費での機械購入単価をあげてほしい。
7	技能継承ができる若い指導員が見つからない。
8	正規指導員1名体制のため訓練以外の事務作業が多い。
9	プロジェクターで授業ができるよう、 <u>デジタル教材があったらよい。</u>
10	実習が主体となる訓練科であるため、リモートも困難であり、新型コロナウイルス感染症防止に向けて密にならないよう工夫して訓練を実施している。
11	労働力人口が減少している中、当校に求人はあるものの訓練生の入校者が少ない。就職前に訓練を受ける仕組みや環境を作ってほしい。
12	ウッドショックで木材が高騰し、実習資材の廃棄を減らそうとしているが、そのためには製材類の二次加工（内製加工）の割合が増加することになり、資材費や職員数は限られている状況で、時間外などで対処している。
13	<u>訓練生が少なく、建築測量実習では実技指導が十分にできず、VTRなどを併用している。</u> （訓練生募集対策に苦慮）

訓練現場の現状と課題

14	<p>昨年度は修了・入校・進級式の時期に施設の閉館等があり、最終的に訓練がスタートできたのが6月に入ってからだった。今年度は感染対策を徹底し、その式典も来賓や指導員も代表で参加いただきスタートすることが出来た。登校の際にはマスク着用の上、入館時の手指消毒、検温等体調チェックを済ませてから授業を開始している。研修視察旅行や文化祭のようなイベントについて現時点では様子見で計画が立てられずにいる。他県など広域からの訓練生が在籍していることから、地域の情報も把握しつつ感染予防に取り組みなければならないと感じている。今一番不安なことは、建築科の教材(材木)が値上がりしていて、今後見通しが見つからないとの業者からの連絡を受けている。材木が入ってこなかったり高騰してきた場合、果たして今までのように十分な訓練をしていられるのか心配している。</p>
15	<p>当施設は、新規中卒を受け入れている普通課程2年訓練である。終了時には満17歳の者もあり、就職活動において年少者の就労制限(労基法)の対象になることから建設系業種への就職が難しく、地元零細企業(福利厚生が貧弱)へ又は他業種へ就職している。</p>
16	<p>近年建設業界は若者に人気が無く、入学率が低迷している。「建築大工の養成」のみでは、訓練生が集まらない傾向にあった。そこで、「設計」や「現場管理」を希望する訓練生にも対応するカリキュラムを構築しながら取り組んでいる。今後は、訓練生及び業界からの多様化するニーズに柔軟に対応していく必要があると感じている。</p>
17	<p>施工は教科書等では理解しにくい部分であること。また学生の中には、自分の適職(設計、現場監理、職人等)に悩む学生が例年いること。以上のことから、専攻実技の中に応用設計製作実習の科目を設け、校内で差し掛けや、駐輪場等を教材として施工し、現場の理解と就職活動支援に活かしております。</p>
18	<p>個人差はあるが、全体的な学力と身体能力の低下が見られるため、学科・実技共に支障をきたす場面が増加しつつある。また、軽度の障害や、コミュニケーション能力不足の訓練生も目立つようになり、意思疎通の難しさを痛感している状況。一斉訓練の最中や生活指導の場においても指導の温度差やパワハラ、ヘイトスピーチなどと捉えられないような配慮が更に必要になっている。</p>
19	<p>現場では建築大工の仕事に機械作業が増えている分、昔ながらの手道具(かんな、のみ、のこぎり)等の使い方を訓練させております。しかし、訓練校を卒業したあと、多数の人が使うことがない状況だと思います。</p>
20	<p>各教科の指導員はその教科の専門家ではないので、各自の特異な分野に偏り満遍なく教えることは難しいと思う。</p>
21	<p>入校生の確保に苦労しています。今年度の入校率は、66.7%(10人/15人定員)、昨年度は、53.3%(8人/15人定員)となっており、入校生確保の取り組みとして、SNS(Instagram、Facebook、Twitter)で実習の様子を情報発信しています。</p>
22	<p>訓練で習得した知識・技能が就職先の業務に生かせられないケースが出ている。建築現場の機械化やPCの進化で手加工の技術、知識を身に着けても生かせる場が減ってきている。</p>
23	<p>生徒が就業しながら通学していますが、会社の仕事の都合で仕方なく欠席する場合があります。出席率80%以上の基準があるのは理解できますが、不足分を事業内訓練等での補填を考えていただきたい。生徒の中には新卒だけでなく、入社5、6年の者もいるわけで仕事を休んで必ず出席するようには言えないところがあります。</p>
24	<p>大工を目指す若者が減っているように感じるため、訓練生の募集に苦労しています。</p>

訓練現場の現状と課題

25	<p>夏季の熱中症対策に苦勞している。特に実習場は冷房設備がなく、40℃近い室温が朝から記録されることもある。午前への実習の移動や工場扇、スポットクーラーで対応しているが対処療法であり効果も限定的です。根本的に安全衛生の課題が財政上の理由等により解消されない環境が続き、法や規則等による改善（空調設備の標準化、義務化）を期待したい。</p>
26	<p>木造建築科1年生の入校時において、訓練生が技能・技術を習得する以前に、建築大工に興味を持ってもらえるような指導をすることが大変難しく、指導員は苦勞しながら工夫して指導にあたっています。</p>
27	<p>指導要領使用上の留意事項にある「～訓練生のニーズ、その他の事情を勘案の上、実情に適応するように創意工夫すべき」に準拠し、訓練計画作成にあたっては、柔軟に対応している。</p>
28	<p>学科担当の講師が訓練指導員に認定される仕組みを作っていただきたい。主に、建築士免許保有者が学科を担当しているが、実質的に技能士でなければ指導員になれない。学科講師の地位向上のためにもこの仕組みの整備を望むものである。</p>
29	<p>当校では木造建築科で学ぶ知識・技能を活かし、地域の問題解決に協力する職業訓練に取り組んでおり、地域の方から木造建築物の現場製作及び補修工事の依頼があった場合、訓練実習の一環として校内では体験できない木造建築物の現場製作及び補修工事を受託収入事業として実施している。受託収入事業は、現場実習やインターンシップ同様、訓練生が実体験からモノづくりについて考え、大工職人に不可欠な「現場で腕を磨くこと」や「コミュニケーション能力」を育む貴重な機会となっている。（別添参照）</p>
30	<ul style="list-style-type: none"> ・木造建築科の指導内容に併せて県職員として対応できる指導員の確保が難しくなっている。 ・中卒普通訓練ではあるが、総合建築科では中卒、高卒、離職者も受け入れた混合訓練となっているので個人の能力差が大きい。さらに、支援学級等からの知的障害者や発達障害者の入校により非常に神経と手のかかる現状である。
31	<p>苦勞点：受講生の個々の能力差が大きい。教科書を読んで理解できる者、できない者、実技で理解できる者、できない者の差が著しい。 工夫点：理解できない者へは、視覚で感覚的に伝わるよう、カラーでテキストを自作している。特に、実際の写真等で見せると理解が早い。 結果的に受講生を差別化しないよう、全員に自作テキストを配布するので、教科書の効果が薄れてしまうが…</p>
32	<p>年間の授業スケジュールの作成ソフトがあると便利 ※授業時間数を自動計算できるもの</p>
33	<p>中卒課程と高卒課程を統合できないものか。 訓練生確保が難しい中、中卒者と高卒者の区別なく受け入れることができれば、事業主側・運営側いずれにとってもメリットがあるのでは。</p>
34	<p>訓練生の確保に苦慮している。県からの補助金をもらうためには3人以上s詰める必要があるが、容易ではない。指導員が益々高齢化しており、なかなか新しい人材（教えられる人：指導員）がおらず世代交代ができていない。</p>
35	<p>働きながらの授業なので、遅刻する訓練生が多いです。興味ある訓練内容にする様に指導員は努力するのみですが、事業主様からの気配りも欲しいです。授業が楽しいと思われる内容であってほしいです。</p>
36	<p>普通学科を何とか減少させたいと思っている。</p>
37	<p>各訓練生が国家試験2級に合格すること目標に訓練を実施している。</p>

訓練現場の現状と課題

38	訓練生が集まりません。現在2名、1名
39	訓練生の減少で毎年訓練生の確保が課題。途中退校で修了式のない年もあった。
40	訓練生募集が課題
41	働きながらの授業なので、遅刻する訓練生が多いです。興味ある訓練内容にする様に指導員は努力するのみですが、事業主様からの気配りも欲しいです。授業が楽しいと思われる内容であってほしいです。
42	訓練生の確保に苦慮している。県からの補助金をもらうためには3人以上集める必要があるが、容易ではない。指導員が益々高齢化しており、なかなか新しい人材（教えられる人：指導員）がおらず世代交代ができていない。
43	当校では地域的に施工管理職の求人が多く、これに対応した科の新設を望みたい。（別表第2、第6共に）
44	訓練生は大幅に減少し、指導者も高齢となり。若年技能者確保が近い将来厳しくなることが危惧される。震災から10年経ち、やむを得ないものと考えております。
45	業界の就業人口が減少する中、訓練生の充足には修了時に与えられる技能検定等の優遇以外にさらに制度的な優遇がなければならないと思います。当校では他学科との合同学習に取り組み、総合的かつ実践的な教育を目指しております。
46	国の補助対象に中小事業主が含まれなかったり、1科に3名以上でないと補助対象にならないのはおかしい。今後1人でも受けたい訓練生がいても補助対象にならなかったため休科になったりで、窓が大変狭くなりつつある。建築系は人材を確保するのが大変なので、補助対象だけでも窓を開けてほしい。
47	訓練基準に関しては特にありませんが、企業ニーズより多岐の職種に対応したマルチ技術者育成の意見もあり、建築士実務経験短縮認定にかかる時間数の確保、在学中に建築施工管理技士学科試験受験、第二種電気工事士受験、技能検定建築大工受検、その他技能講習・特別教育、模擬家屋建築、技能照査を1年間で実施するのに苦労しています。